

2016年3月14日 全3頁

ドイツの3州議会選挙で難民反対のAfD躍進

既成政党に対する「警告」

経済調査部

シニアエコノミスト 山崎 加津子

[要約]

- 3月13日に行われたドイツの3つの州議会選挙で、メルケル首相の難民政策に真っ向から反対するAfD（ドイツのもう一つの選択肢）が大躍進を遂げた。ドイツでは得票率5%以上の政党にのみ議席が配分されるが、AfDは3つの州議会すべてで議席を獲得し、特に旧東独のザクセン・アンハルト州では25%近い得票率で第2党となって存在感を示した。
- AfDの大躍進は、今回の州議会選挙では各州それぞれの政策課題よりも難民政策が大きな争点となったことを示唆している。メルケル首相の「寛容な」難民受け入れ政策に対しては、同首相のCDU（キリスト教民主同盟）やその姉妹政党のCSU（キリスト教社会同盟）内からも厳しい批判の声が高まっているが、AfDは難民政策への不満や批判の受け皿となったのである。
- ただし、ドイツ国民の多数派がメルケル首相の難民政策を否定しているとはまだ言えないだろう。AfD以外の既成政党は総じて議席数を減らしたが、バーデン・ビュルテンベルグ州の与党第1党の緑の党は議席数を増やし、また、ラインラント・プファルツ州の与党第1党のSPD（社会民主党）の議席数は若干の減少にとどまった。この両党の党首はメルケル首相の難民政策を基本的に支持している。旧西独の2つの州議会選挙でもAfDが躍進したが、一方でこれまでの政治の継続も選択されたのである。
- 今回の3州議会選挙は、2017年9月に行われるドイツ総選挙の行方を占うものとして注目されていた。メルケル批判を強めるCSUは同首相の難民政策が否定されるとさっそうく氣勢を上げたが、むしろ、CSUによるメルケル首相批判に象徴される与党内のごたごたがドイツ国民の既成政党に対する失望に拍車をかけたと考えられる。総選挙までの残り1年半で求められているのは、既成政党がAfD躍進という警告を無視せずに、結束して場当たりの難民対策を打ち出し、無制限で無節操な難民受け入れが行われているとの国民の不安を低減させることであろう。

ドイツの「スーパー・サンデー」

3月13日にドイツでは全16州のうち3州で州議会選挙が行われた。ドイツの南西に位置し、州都シュトゥットガルトにダイムラーの本社があるバーデン・ビュルテンベルク州、フランスと国境を接する中西部のラインラント・プファルツ州（州都はマインツ）、旧東独のザクセン・アンハルト州（州都はマクデブルグ）である。

2017年9月の総選挙が徐々に視野に入中、この3州議会選挙の結果は総選挙の行方を占うものとしても注目され、米大統領選挙になぞらえて3月13日を「スーパー・サンデー」と呼ぶ報道も見受けられた。今回特に注目されたのが、メルケル首相の難民受け入れ政策に真っ向から反対するAfD（ドイツのもう一つの選択肢）がどこまで得票を伸ばすかということであった。事前の世論調査でAfDの支持率は上昇傾向にあり、3州とも第3党に食い込むのではないかと予想されていたのである。

14日未明の選挙速報によれば、AfDは3州とも世論調査結果よりも高い得票率で、バーデン・ビュルテンベルク州とラインラント・プファルツ州では第3党に、ザクセン・アンハルト州では第2党に大躍進した。ドイツでは得票率が5%を超えた党にのみ議席が配分されるが、AfDは3州でいずれも二桁の議席を獲得する見込みである。ちなみに同党が議席を保有する州議会はこれで16州中8州となった。これに対して、メルケル首相が党首を務めるCDU（キリスト教民主同盟）は3州でそろって得票率が下がり、議席を大きく減らす結果となった。

図表1 3月13日の3州議会選挙結果（速報値）

バーデン・ビュルテンベルク州（投票率70.4%）

	緑の党	CDU	AfD	SPD	FDP	左派党	その他	合計
得票率	30.3%	27.0%	15.1%	12.7%	8.3%	2.9%	3.7%	100.0%
議席数（前回差）	47(+11)	42(▲18)	23(+23)	19(▲16)	12(+5)	—	—	143

ラインラント・プファルツ州（投票率70.4%）

	SPD	CDU	AfD	FDP	緑の党	左派党	その他	合計
得票率	36.2%	31.8%	12.6%	6.2%	5.3%	2.8%	5.1%	100.0%
議席数（前回差）	39(▲3)	35(▲6)	14(+14)	7(+7)	6(▲12)	—	—	101

ザクセン・アンハルト州（投票率61.1%）

	CDU	AfD	左派党	SPD	緑の党	FDP	その他	合計
得票率	29.8%	24.2%	16.3%	10.6%	5.2%	4.9%	9.0%	100.0%
議席数（前回差）	30(▲11)	24(+24)	17(▲12)	11(▲15)	5(▲4)	—	—	87

（注1）政党名の略称は以下の通り。CDU：キリスト教民主同盟、SPD：社会民主党、FDP：自由民主党、AfD：ドイツのもう一つの選択肢

（注2）これまでの各州議会与党はバーデン・ビュルテンベルク州が緑の党とSPD、ラインラント・プファルツ州がSPDと緑の党、ザクセン・アンハルト州がCDUとSPD

（出所）各州選挙管理局データより大和総研作成

AfD はメルケル首相の難民政策への不満の受け皿に

AfD の大躍進は、今回の州議会選挙では、各州それぞれの政策課題よりもメルケル首相の難民政策が大きな争点となったことを示唆している。同首相の「寛容な」難民受け入れ政策に対しては、与党内からも厳しい批判の声が高まっているが、AfD は難民対策への不満や批判の受け皿となったのである。とりわけザクセン・アンハルト州で AfD が大きく勢力を伸ばしたのは、旧東独が旧西独と比べれば失業率が高く、景気回復の実感が乏しいこと、難民に限らず総じて外国人の受け入れ経験も少なく、排外主義が根強いことを反映している。

旧西独の 2 州ではこれまでの政治の継続も選択

ただし、ドイツ国民の多数派がメルケル首相の難民政策を否定しているとまではまだ言えないだろう。AfD がもっとも支持を集めたザクセン・アンハルト州でも、得票率は 25%弱で、全体の 4 分の 1 以下である。さらに、AfD 以外の既成政党は総じて議席数を減らしたが、バーデン・ビュルテンベルグ州の与党第 1 党の緑の党は議席数を増やし、ラインラント・プファルツ州の与党第 1 党の SPD（社会民主党）の議席数は若干の減少にとどまった（得票率は上昇）。この両党の党首はメルケル首相の難民政策を基本的に支持している。旧西独の 2 つの州議会選挙でも AfD は躍進したが、一方でこれまでの政治の継続も選択されたのである。

もっとも、この 2 州でも与党第 2 党はどちらも大苦戦しており、これまでの連立の組み合わせ（バーデン・ビュルテンベルグ州では緑の党と SPD、ラインラント・プファルツ州では SPD と緑の党）では議会の過半数を占めることはできない。このため、AfD を除いた各党の間で、新たな連立の組み合わせが模索されることになる。

国民からの「警告」に既成政党は正しく応えられるか

今回の 3 州議会選挙は、2017 年 9 月に行われるドイツの連邦議会選挙（総選挙）の行方を占うものとして注目されていた。3 州の結果をまとめて総括すれば、連邦議会で与党を形成する CDU/CSU と SPD は苦戦した結果となり、AfD が次の連邦議会選挙で初めての議席を獲得する可能性が高いと判断される。メルケル批判を強める CSU（キリスト教社会同盟：バイエルン州のみを基盤とするメルケル首相の CDU の姉妹政党）は同首相の難民政策が否定されるとさっそく氣勢を上げたが、むしろ、CSU によるメルケル首相批判といった与党内のごたごたがドイツ国民の既成政党に対する失望に拍車をかけたと考えられる。総選挙までの残り 1 年半で求められているのは、既成政党が AfD 躍進という警告を無視せずに、結束して場当たりの難民対策を打ち出し、無制限で無節操な難民受け入れが行われているとの国民の不安を低減させることであろう。